

洗足学園音楽大学

邦楽 冬の演奏会

2020年12月5日（土） 14：00開演（13：30 開場）

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテンBF

主催：洗足学園音楽大学・大学院

協力：現代邦楽研究所

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでの飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【プログラム】

1 「さらし風手事」宮城道雄 作曲

箏高音：竹下 茉里 王 莹 川田 健太

箏低音：平原 愛香 中村 美優 吳 尚美咲

2 「名乗笛」「楽」「中ノ舞」古典

笛：馮 蕊 太鼓・鼓：富田 慎平

3 「箏三絃二重奏曲」杵屋正邦 作曲

箏：竹下 茉里 三絃：染谷 美里

休憩 15分

4 「妝台秋思」古曲 杜次文 編曲

竹笛：馮 蕊 古箏：王 莹

5 「姜女泪」周延甲 作曲

古箏：吳 尚美咲

6 「夢の輪」沢井比河流 作曲

箏I：王 莹 川田 健太 箏II：平原 愛香 吳 尚美咲

十七絃：竹下 茉里 中村 美優

津軽三味線：染谷 美里 尺八（笛）：馮 蕊

【出演者】

現代邦楽コース大学院、学部生、卒業生

吳尚 美咲（院2：箏） 馮 蕊（院1：笛）

竹下 茉里（学4：箏） 王 莹（学4：箏）

染谷 美里（学3：津軽三味線） 中村 美優（学2：箏）

川田 健太（学1：箏）

平原 愛香（卒：箏）

助演

富田 慎平（講師：打楽器）

司会

松尾 祐孝（教授）

【曲解説】

「さらし風手事」宮城道雄 作曲

1952年(昭和27年)に宮城道雄によって作曲された、高音箏と低音箏の二重奏曲である。この曲は、深草 検校作曲の地歌「さらし」を原曲としている。これは、灰汁で煮た布を宇治川でさらして漂白する様子を描いた曲である。この「さらし風手事」は「さらし」に現れる三種類の「さらしの手」のリズムを用いて、自由に発展させて作曲された。「手事」とは、歌を伴わない器楽曲であるという意味を表している。宮城道雄は新日本音楽の創作に力を入れており、西洋音楽の理論の導入など、邦楽の革新に努めた人物である。しかしこの曲については、西洋音楽の影響よりも、日本の古典的な要素を巧みに生かした曲となっている。[演奏者]

「名乗笛」「楽」「中ノ舞」古典

能管による、能、歌舞伎の旋律「名乗笛」「楽」「中の舞」。日本の芸能文化に大きな影響を与えた、武士の作り上げた「能楽」から横笛（能管）を取り上げる。侍の作り上げた音楽らしく、飾りを排し、淡々と演奏する能楽由来の3つの楽節を演奏する。「名乗笛」は脇方の登場にあしらわれる能管の独奏曲。「盤渉楽」とも呼ばれる雅楽から影響を受けた曲であり、優雅な曲調を持つ。本来、鼓、大鼓、太鼓との合奏として演奏されており、「中の舞」は、数ある能楽の「舞い」の楽節のうち、もっとも多く奏される曲である。[西川浩平]

「箏三絃二重奏曲」杵屋正邦 作曲

三絃と箏という二つの伝統的邦楽器による楽曲ですが、殊更安易な妥協的融合性もたせず、両者が出来るだけ個性の主張を行うことにより、従来作品にみない独自性を与えようとした作品です。三絃は二上り、箏はやや変則的な平調子風調絃によって開始されますが、途中で三絃が本調子に転じ、箏もそれに対応した高音に転じてゆきます。[楽譜解説]

「妝台秋思」古曲 杜次文 編曲

漢の時代、漢民族と北方少数民族匈奴の友好のため匈奴の王に嫁がされた女性、王昭君の人生を描いた曲です。ひとり故郷を離れ、北方に嫁いだ王昭君が化粧台に向かって、故郷への思いを馳せるという心情を表現する作品です。[演奏者]

「姜女泪」周延甲 作曲

「姜女泪」は、「長城調」とも呼ばれ、陝西箏派の重要な代表曲です。全体の曲はすべて苦い音階を使っています。秦時代始皇帝が万里の長城を建てた時、労役が激しかったと伝えられています。孟姜女が新婚三日間で、新郎は万里の長城を建設するために出発しました。孟姜女は身が寒衣を背負って、辛苦をなめ尽くして、万里の夫を探して万里の長城に来て、得たのはところが夫の死亡の悲報です。彼女は城の下で泣いて、7日間の7夜止まらないで、この万里の長城はここで崩れて、新郎の死体を現して、孟姜女は新郎を埋葬した後に絶望の中で海に投げて亡くなります。[演奏者]

「夢の輪 ver.尺八+津軽三味線」沢井比河流 作曲

この曲はI箏、II箏、十七絃からなる三重奏である。十七絃が伴奏風に示す主題に、独自のメロディーを持つ箏群が徐々に染まりながら協奏と競演を重ね、やがて融合する。そして大きな音のエネルギーと化し夢を駆け抜ける。[作曲者]

※ 本日の演奏はオリジナルの箏三重奏版に尺八と津軽三味線パートを付け加えたヴァージョンになります。尺八パートを笛で演奏いたします。



洗足学園音楽大学